

林大の風

第26号
高知県立林業大学校



新年のご挨拶

林業大学校副校長

金子 尚公

新年、明けましておめでとございます。旧年中は本校の講義や実務研修、インターシップ等につきまして特段のご理解、ご協力を賜りましたこと、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

昨年4月1日付けの異動で本校に就任してから早1年が経とうとしています。元氣な挨拶で登校する研修生から若いエネルギーを吸収しつつ、日々逞しく成長していく姿を目の当たりにし、頼もしさを感じています。

また、昨年は基礎課程に初めてとなる女性が入校し、高知の林業界における女性進出について大きな一歩を踏み出した1年でした。短期課程でも協力頂いている林業女子会@高知と共に業界を盛り上げていきたいと感じています。

さて、現時点(1月15日)で来年度の入校予定人数は、基礎課程が17名、専攻課程森林管理コースが9名、林業技術コースが4名、木造設計コースが5名の合計35名となっております。

1月17日から2月4日まで専攻課程の一般後期募集もありますので、林業・木材産業を志す方や本校に興味のある方がお近くにおられましたら、是非お声がけ下さいますようお願い申し上げます。

最後になりますが、新しい年が皆様にとって実りの多い年となりますことを心より祈念いたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。

岡山研修(杉産業視察)

12月9日に森林管理コースと林業技術コース合同で林業機械へのICT技術の活用を学ぶため、岡山県新見市にある有限会社杉産業の現場へ視察に行きました。有限会社杉産業では、iLogger、バリューバッキングシステムが搭載されたハーベスタを導入しています。このシステムは、林業先進国フィンランドの「ワラタ社」製のシステムであり、木材市場での取引価格を事前に入力することで一本あたりの木材価格が最大になるように採材プランを自動で算出するものになります。

今回の視察では、このハーベスタを実際に見せていただきました。現地では、有限会社杉産業の杉代表取締役とこのハーベスタの導入元である日立建機日本株式会社の野口様に構造や仕組みについて、併せて活用方法について研修生に説明をしていただきました。



このハーベスタの特徴としては、伐採後のファーストカット時に、あらかじめ入力した価格表と材の直径、長さを照合し、理想的な採材プランを立ててくれます。直径・長さ・材積も測ることが可能です。採材プランは内蔵され

ているコンピュータが判断してくれるため、オペレーターは木材の腐りや曲がり判断するだけで採材することができます。また、玉切りする長さはオペレーターの判断で変えることもできます。さらに、このシステムが提示した採材プランとオペレータが想定したプランが異なった場合、このシステムがなぜこの採材プランを示したのかを考えることで一本の木材価値を最大化する意識がつくという点で、オペレータの育成にも寄与できるとのことです。

また、掴み圧を樹種ごとに変えることができ、スギは優しく掴むといった設定をすることが可能です。

他にも、カラーマキング機能によって、直材には赤色、曲がり材には青色、パルプ材には色をつけ



ないなど視覚的に区分することが可能であるため、仕分け作業の効率化にも活用できます。

研修生は12月13日から2週間、高性能林業機械の実習で、見学したハーベスタを操作します。

このような最新技術を実習という形で体験することによって、新たな視点を持ち、将来に役立ててほしいと思います。

今回研修にご協力いただいた有限会社杉産業、日立建機日本株式会社の皆様にはこの場をお借りしてお礼申し上げます。